

**高園 満** たかぞの みつる  
 1944年生まれ、福岡県北九州市在住。磯や堤防のチヌ釣りでは、九州を代表する第一人者である。チヌの最長寸記録は60cm。ジャパン・ダイナミック磯連合に所属。

# 状況に応じた釣りを！

釣り場の状況に合わせた釣りを心がけているという高園満氏。スタイルにこだわらず、磯でも波止でも一匹一匹を大切に釣るのだそうです。そんな氏の配合エサ活用法を聞いてみました。

ですが、こちらは底付近で漂うといった感じになりますね。  
 春はまだまだ水温が安定せず、少し水温が下がってしまうとチヌは底付近

で行動するようになります。このときは、先ほど紹介した「ムギパワー」もすべて混ぜて使います。全体的に底付近で効くようにするわけですね。

## 春

これから私の、季節ごとのお薦めブレンドパターンを紹介させていただきますが、ひとつ頭に入れておいていただきたいことがあります。それは、海の状況は、常に化するものだという事。いつでも状況の変化に応じて手直してできるように、なるべくなら予備の配合エサを準備しておくことをお薦めします。

春は、チヌが産卵のため浅場へ移動してくる乗っ込みの時期。初期には岸近くで越冬した大型の居着き上がるようになり、以降は沖の深場から回遊してきたグループが釣れるようになります。

この時期は、浅場の宙層から底を狙うブレンドに仕上げます。具体的には、「チヌパワーV10白チヌ」1袋と「チヌ

パワーG2」1袋、そしてオキアミ3kgを混ぜ、その表面に「ムギパワー」を1/2袋振りかけるといふもの。それぞれの配合エサの特長としては、「チヌパワーV10白チヌ」は軽めで、白さがチヌにアピールしてくれる配合エサ。潮の流れをとらえてくれるので、仕掛けがどついうルートで沈んでいくのかということもイメージしやすくなります。

「チヌパワーG2」も同様に軽い配合エサで、拡散性に優れているため、広範囲からチヌを集めることができます。「ムギパワー」は、発酵された押しムギが大量に含まれた配合エサですね。

「ムギパワー」を混ぜ込まないのは、単独で沈下させて、押しムギの底に集中して溜まる性質を活かしたいから。こつすること、寄せたチヌを足止めさせる効果を狙っているのです。「チヌパワーG2」にもムギは配合されています。



高園氏は、波止でも磯でも全力を尽くしてチヌを狙います。

春のブレンドパターン(半日分)



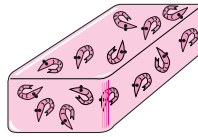
チヌパワー-V10白チヌ  
1袋

+



チヌパワー-G2  
1袋

+



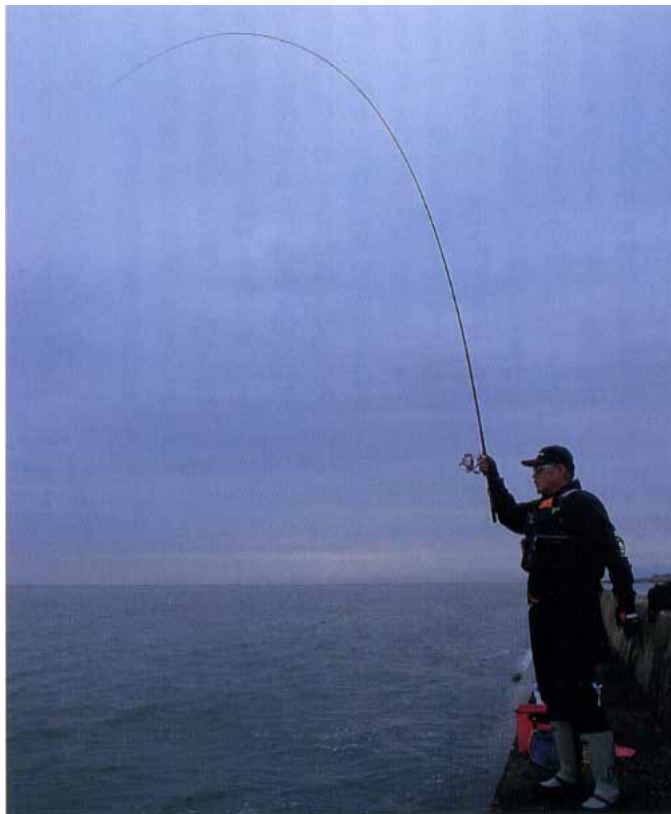
オキアミ  
3kg

+



ムギパワー  
1/2袋

通常は振りかけるのみとし、チヌが底にいるときは混ぜ込む



波止での竿出しの場合、大勢の釣り人と情報交換できるのもメリット。

夏

夏は水温が高くなりすぎることもあるため、チヌは水温の安定している深いところで行動するようになります。もちろん潮の流れや水温などの状況次第では浅場、浅タナにやってくることもありますが、基本的には水深のあるところを狙うのがよいでしょう。

ように、「チヌパワー」1袋に「チヌパワームギ」1/2袋、そして「ムギパワー」1/2袋とオキアミ3kgというパターンで挑みます。よく練ることでネバリが出てきますので、丁寧に練り込んで仕上げてください。なお、このパターンは重さの異なる配合エサを組み合わせているので、底付近で幅広く効果を発揮するのでもメリットです。

また、エサ取り対策として、オキアミは小粒のものを、ゆっくり沈むようカットせずに使います。

夏のブレンドパターン(半日分)



チヌパワー  
1袋

+



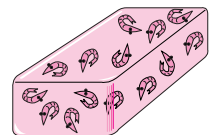
チヌパワームギ  
1/2袋

+



ムギパワー  
1/2袋

+



オキアミ 3kg  
小粒のものをカットせず使用

秋のブレンドパターン(半日分)



チヌパワー-V10白チヌ  
1袋

+



チヌパワー-G2  
1袋

or



チヌパワー-V9  
1袋

秋

秋は、チヌは落ちに備えて体力づくりをする時期。夏の間を避難していた深いところから浅場にやってきて、活発に捕食するようになります。

この時期は、2ヒロ以内を釣るのであれば、軽めの「チヌパワーV10白チヌ」1袋と、同じく軽いエサである「チヌパワーG2」1袋もしくはオールラウンドに使える「チヌパワーV9」1袋というブレンドで挑みます。エサ取りとチヌを満腹にさせないために、オキアミは使いません。

釣りのイメージとしては、上層でエサ取りが食べ残したエサが、ポロポロと下に落ちていくわけですね。それをチヌが食うわけですが、配合エサの粉だけなので、いつまで経っても腹は満たされない。また、上層のエサ取りも粉だけでは満腹にならないので、活発にエサを追う。つまり、チヌのタナまで落ちる、エサそのものが少ない。そのため、チヌは食欲を満たそうと浮いてくるので、そこをバラける練りエサの「バラケネリックス(アミ)」や、スーパー生加工を施し、シャキッとした身で食い込みのいいオキアミエサ「ミラクルエース」といった、勝負の速い付けエサで食わせるわけです。



配合エサはもちろんのこと、高園氏はハリやラインなどの小物にも大いにこだわっています。

冬のブレンドパターン(半日分)

チヌパワー 1~2袋 + チヌパワームギ 1/2袋 + ムギパワー 1/2袋 + オキアミ 3kg 細かくカット

冬

秋の終わり頃から、チヌは越冬のために沖の深場に落ちていくようになります。ですが、体力のある大型は近場に残留することも、いわゆる居着きと呼ばれるもので、この時期はこの大型を釣る、潮のゆるい場所での深ダナから底狙いの釣りをすることになります。

配合エサのブレンドパターンは、「チヌパワー」1~2袋、「チヌパワームギ」1/2袋、「ムギパワー」1/2袋、そしてオキアミを3kgというもの。「チヌパワー」は、強い匂いで魚を寄せるためにブレンド。「チヌパワームギ」と「ムギパワー」は種類の異なるムギを底で効かせ、チヌにアピールするために混ぜています。

なお、オキアミと配合エサを混ぜるとき、オキアミは細かくカットするようによします。その理由は、少しでもチヌの食い気を立たせたいから。この時期はエサ取りがあまりいませんから、オキアミはきちんと底まで届きますよね。そして底までいったオキアミは、カットされていることで匂いが強く出るし、小さいので、当然チヌは食いやすい。そうやってオキアミをどんどん食べさせ、それにつれて活性が高まってくれれば、という考えなんです。

付けエサ

付けエサは、春は「くわせオキアミスペシャル」か「ミラクルエース」、「くわせオキアミ生タイプ」などを使います。この時期はまだ水温が低くエサ取りが少ないので、食い込みを重視しているという感じですね。

夏と秋はさまざまなシーンを想定し、多くの種類を用意します。たとえば、標準で使う「くわせオキアミスペシャル」や「ミラクルエース」に、エサ持ちが抜群にいい「くわせエビ」や「くわせコーン」、練りエサの「くわせ練りエサ・チヌ」や「くわせ練りエサ・チヌ白ダンゴ」、それにチヌが浮いてきた



付けエサは、多く準備していた方が有利。

**マルキューグッズ はみだし情報・7**

**パワーエサバケットシリーズ**

ラクラク開閉のフタを装備したエサバケット。付けエサを、雨や風、日光から守ります。小型の「11BL」は「PAライフジャケット(別売)」にセット可能で、中型の「15B」は、内部にエサの小分けができるスノコ型仕切り板を採用しています。

写真は奥が15B、手前が11BL

ときにも対応できるように、勝負が速い「パラケネリックス(アミ)」などですね。なお、練りエサは、違う種類のもの同士を混ぜ合わせて使うのもおもしろいと思います。それぞれの特長を活かした、オリジナルの付けエサをつくるというわけですね。まんべんなく練り合わせたり、かるく合体させるだけにするなど、いろいろ試されると思います。

冬は春と同様に、食い込みを重視した「くわせオキアミスペシャル」などを使います。それでも食わない場合はムギ身にしたリ、チヌが追えるぐらいのゆっくりとしたスピードで、誘いをつくりかけてやってください。